

第五十一回 例を上げて説明しますと・・・

①

患者が右手の親指がシビレると申しますと、首の骨の上から6番目の骨が捻れて神経を圧迫しているものです。

首の骨の上から6番目の骨は背骨の上から8番目の骨も捻れ異常をおこしているものです。

背骨の8番目の骨からの神経は主として肝臓を支配しているものです。

肝臓が異常を起こしますと右の腕のヒジ、右の足のヒザにも異常を起こしているものです。

ヒザ・ヒジの痛みには2通りがあります。

その部分の血流が悪い場合と骨のズレにより関節部分の痛みが出る場合があります。

どちらにしても肝臓に異常をおこしていますと顔の下顎辺りに血流障害をおこしているものです。

内臓の異常反応は足・腕そしてその指にも反応が出ています。

顔面にも内臓の異常反応が出ています。

口唇の異常反応は胃・鼻は前立腺、子宮・眼は肺・気管支、左右の眼との間のくぼんだところ、つまり鼻の上は小腸、おでこは脾臓、おでこの横は副腎、さらに後横は心臓、大腸は右か左かの首すじ、そして首と肩との境目の凝りです。このように関係のあるところの顔面の皮フが悪くなったり、頭痛をおこしたりするものです。

花粉症は必ず眼がかゆくなるのは肺・気管支に血流障害を起こしているものです。肺・気管支は背骨の上から3番目の骨がズレ、捻れをおこし、又足のつけ根の肢関節、又腕のつけ根の肩あたりの凝りが出たりするものです。

②

鼻水は小腸です。背骨の上から10番目の骨がズレ、捻れをおこしているものです。足では、ふとももの後つまりおしりとヒザの間の筋肉に異常をおこしているものです。

背骨の上から3番目と10番目の骨をアジャストしますと2分位で鼻水が止まり眼のかゆみは半分くらいとれるのですが、但し小腸を刺激するものを取り入れますと、鼻水がなかなか止まらないものです。例えばコーヒー、チョコレート、コーラ等はその例です。

顎関節又は歯の咬み合せのバランスが崩れていますと又半日で元の状態に戻るものです。

ここで話は元に戻ります。

肝臓に異常をおこしているものですから、頭のテッペン骨である頭頂骨があります。この頭頂骨は真中で左右に2つの骨に分れ前後に走っている縫合部のどこかに異常があれば必ず頭のテッペン骨にも異常反応が出るものです。

この異常反応をおこしている個所の右か左かに膨らんでいるか、くぼんでいるか、どちらか反応がある場合もあり、左右共に膨らんでいる場合もあり、左右共にくぼんでいる場合もあるものです。

膨らんでいる側のその位置の歯の咬み合わせが高い事を意味し、くぼんでいる側のその位置の歯の咬み合わせが低いことを意味するものです。

そこで、その歯の咬み合わせが高いか低いかを確認する為、この場合は右手のレジのシビレは左右の5本の指のうち、どれかが異常反応しているものです。右手の指も同じです。

③

この異常反応している指の関節の骨と骨との隙間が拡がりすぎていますとその位置の歯の咬み合わせが高く、逆に隙間の狭く圧縮された状態ですとその位置の歯の咬み合わせが低いことを意味します。

仮に5本の指のうち、真中の指である中指が異常反応しているとしますと反対側の足の裏の土踏まずに異常があると歯の咬み合わせが高く足の甲側の土踏まずの反対側つまり上側に異常反応していますと歯の咬み合わせが低いことを意味します。

そして咬んだ状態で下顎の骨の内側を骨に沿って奥から前へ順序良く指を上やや強く押しますと痛みを感じる位置が歯の咬み合わせが高いか低いかどちらか意味しますが、左右の腰の骨の高さ、つまり骨盤の上外側の左右の腸骨後の高さが違っていますと頭のテッペン骨である左右の頭頂骨も左右の高さが違っているだけでなく頭蓋骨全体が左右の高さが違い、上顎の骨及び上の左右の歯全体特に真中から奥の歯及び歯のドテの骨も左右の高さが違い、首の7個の骨すべてが頭のテッペン骨である頭頂骨と同じ方向にわずかであるが片方が上に上がり反対側は下へ下がっているものです。

その為に左右の歯の咬み合わせのバランスが狂うだけでなく、眼・耳・鼻のあたりの骨のズレ及び血流障害をおこすものです。

又頭頂骨が上に上がっている側の方に首の横の首すじ及び首と肩との境目が凝ったりしますとその側の大腸にも血流障害の異常反応があるものです。

④

足での大腸の反応はヒザと足首の間の前側の筋肉又は外横側の腓骨側が凝ったりするものです。この様に左右の腰骨の高さ、左右の頭頂骨の高さ、顔面の前後のズレを正常な状態に戻した上で先程述べた歯の咬み合せのバランスの調整するものです。

口の中も上の歯の側面ではなく左右の咬む面を左右の親指の平で奥歯を越えて、さらに1~2cm奥に指を滑らせますと骨の突起に当たるものです。この突起は頭蓋骨の中心に位置する左右一対の蝶形骨の突起で左右共に下に向いて伸びているのですが頭のテッペン骨である頭頂骨の左右の高さが違っていますとこの突起も頭頂骨とおなじ様に上下にズレをおこし、又前後にもズレをおこしているものです。そして今度は軽く口を閉じて左右の指を左右の上の歯の外側に指をあてて奥へ奥へ突きあたるどころ迄指をすべらせていくと左右の隙間が違うものです。

この左右の隙間及び蝶形骨の突起の位置が上下・前後に左右対称になると一瞬に首の骨は生理的湾曲になり背骨の前方のズレが正常な位置に戻るものですが歯の咬み合わせのバランスが悪いと又元の状態に戻るものです。

そこで歯の咬み合せのバランスの調整をするものです。

⑤

歯の咬み合せのバランスをとることにより全身の血液の流れを良くすることにより、自然治癒力・免疫力を増し、病気で苦しむ人を助けることになるものです。

30年40年先には歯科はこの方向に出てくるのではないかと思います。医者は急性の病気を慢性に持ってくる事は出来ても慢性の病気を治せないものです。薬で症状をおさえるだけのものしかないものです。

その時に医者のリストラが始まるのではないかと思います。